

2-3 モデル地区の選定

2-3-1 モデル地区の抽出

本検討のモデル地区として、海岸保全施設前面に漁港施設を有し、漁港の背後に集落が密集するなど、堤内地への気候変動の影響が懸念される地区を選定する。

ここで、令和3年度検討で対象とした海岸（太平洋北側、太平洋中側、日本海中南側）と合わせて気候変動による施設への影響を全国的に把握できるよう、本検討では波浪の影響が大きい太平洋南部の海岸及び高潮偏差の影響が大きい瀬戸内海の海岸を含め、計3海岸のモデル地区を選定する。

2-3-2 モデル地区の選定及び現況整理

以下の基準（①②③）に基づき、モデル地区を選定する。なお、基準①の中で台風の影響が大きい地域に限定しているのは、気候変動が低気圧による偏差・波浪へ与える影響についての知見は少なく、またその検討手法も確率されていないためである。

- ① 地理的特徴：令和3年度検討で対象とされておらず、かつ台風の影響が大きい地域（太平洋南部、瀬戸内海等）に属する海岸
- ② 施設整備状況：主要な高潮対策施設（護岸・離岸堤・人工リーフ等）を有し、護岸・堤防と沖合施設（漁港施設を含む）の連携を考慮した高潮対策の検討が可能な海岸
- ③ 立地特性：背後に住宅等の資産が密集しており、気候変動に伴う海面水位上昇・高潮偏差・波浪の増大による浸水被害が大きいと想定される海岸

①～③の基準に基づきモデル地区として選定した漁港海岸を表 2-3.1 に示す。

表 2-3.1 本検討で対象とするモデル地区（案）

海岸名	地域	施設整備状況	立地特性
A 漁港海岸	太平洋南部	護岸、離岸堤	住宅密集地
B 漁港海岸	伊勢湾	防潮堤、陸閘	住宅密集地
C 漁港海岸	瀬戸内海	護岸、離岸堤、 陸閘、樋門	住宅密集地